



さく癖するウマ

動物福祉行動学：動物の行動と健康を科学する

Animal Welfare & Behaviour

准教授 二宮 茂

動物管理学研究室では、動物の福祉と行動の研究を通して動物の飼い方を科学的に発展させることを目指しています。

(研究)ウシの睡眠、アニマルウェルフェアの指標となるのか？

飼育動物の状態を把握することは、飼育管理上重要な作業です。その際、アニマルウェルフェアは主要な判断材料となり、5つの自由の観点から動物の肉体的・精神的健康性を客観的に評価します。一方、動物の精神的な部分については、不明な点が多く、評価が難しいのが現状です。本研究室では、その指標の候補として睡眠行動を研究しています。睡眠は動物の生存にとって必須な行動です。また、動物の欲求充足との関係が示唆されています。現在、ウシの生活状況を24時間記録し、アニマルウェルフェアと睡眠行動の関係を解析しています。



ウシの睡眠姿勢

アニマルウェルフェア(動物福祉)の管理

アニマルウェルフェアとは、動物が良い状態で生活していることを表す言葉です。以下にある'5つの自由'は、その指針として国際的に広く用いられています。

- ①空腹・渇きからの自由
- ②不快感からの自由
- ③痛み・怪我・病気からの自由
- ④正常行動を発現することの自由
- ⑤恐怖・苦悩からの自由

FAWCが提案した'Five Freedoms'(5つの自由)

人間が飼育する動物が良い状態で生活・生存することは、動物の能力を十分に発揮させるために必要なことです。アニマルウェルフェアをしっかり管理することは、実用的かつ実践的にも重要な作業です(倫理的なものとは限りません)。これら5つの側面の管理は動物管理の基本となります。

飼育下の動物の行動に関する研究例



ウシの飼育環境エンリッチメント

身繕い用器具、仲間からの攻撃を回避・逃避する行動を可能にする仕切り、などを設置した。



混合種飼育の様子

行動調査による混合種飼育下のシマウマのウェルフェア評価。他種との社会関係も記録する。



ウマの行動記録の様子

給餌に対するウマの行動反応の個体差に関する調査。遺伝学的、神経学的な側面からもウマの行動の発現メカニズムを解析する。